



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月12日

上場会社名 株式会社コマースOneホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4496 URL <https://www.cm-one.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 岡本 高彰
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部長 (氏名) 田中 耕一 (TEL) 03 (5745) 3888
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	1,435	22.6	346	36.2	376	42.2	254	42.1
2021年3月期第2四半期	1,170	—	254	—	264	—	178	—

(注1) 包括利益 2022年3月期第2四半期 170百万円(△30.8%) 2021年3月期第2四半期 247百万円(—%)

(注2) 2020年3月期第2四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2021年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	33.77	—
2021年3月期第2四半期	24.22	—

(注) 当社は2021年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を計算しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	2,730	1,982	72.6
2021年3月期	2,592	1,811	69.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,982百万円 2021年3月期 1,811百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,841	12.8	632	10.4	647	10.0	432	10.0	57.49

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注2) 当社は2021年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。2022年3月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割後の影響を考慮して記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年3月期2Q	7,523,400株	2021年3月期	7,523,400株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	一株	2021年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年3月期2Q	7,523,400株	2021年3月期2Q	7,384,055株

(注) 当社は2021年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルスの変異種の出現による新規感染者の増加により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が一部地区で発令され、その影響により経済活動が制約を受ける厳しい状況が続きました。しかしながら一方では、感染防止策の徹底やワクチン接種が進み新規感染者数の減少に伴い国内外で経済活動の正常化へ向けた期待が高まっております。

当社グループを取り巻くEコマース市場は、昨年は新型コロナウイルス感染症の国内蔓延による消費活動が変化したいわゆる「巣ごもり消費」の活発化により大きく拡大いたしました。現状では急激な市場規模の拡大に一服感はあるものの、日本社会のDX推進に伴うEC化率の上昇と相まって継続的な成長を見せております。

このような状況下において、未だ対面での営業活動に制限はあるもののオンラインセミナーの積極的な開催や営業拠点の配置拡大により地方への効率的な営業活動の結果、当社グループのECプラットフォーム事業における売上高は1,435,113千円（前年同期比22.6%増）、営業利益は346,444千円（前年同期比36.2%増）、経常利益は376,338千円（前年同期比42.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は254,101千円（前年同期比42.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産につきましては、2,730,139千円となり、前連結会計年度末に比べ137,781千円増加いたしました。流動資産は1,752,593千円となり、前連結会計年度末に比べ223,713千円増加いたしました。これは、主に業容拡大により現金及び預金が173,677千円増加したことによるものであります。

固定資産は977,546千円となり、前連結会計年度末に比べ85,931千円減少いたしました。これは、主に投資有価証券の売却や時価下落に伴い投資その他の資産が106,080千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、747,878千円となり、前連結会計年度末に比べ33,055千円減少いたしました。これは、主に前受金が39,388千円増加したものの、未払法人税等が47,923千円、繰延税金負債が16,046千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、1,982,261千円となり、前連結会計年度末に比べ170,837千円増加いたしました。これは主に投資有価証券の時価下落に伴い、その他有価証券評価差額金が83,263千円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益により、利益剰余金が254,101千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の69.9%から72.6%となりました。

なお、当社は、ECプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っていません。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて174,607千円増加し、1,405,850千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は209,952千円となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益392,077千円、減価償却費34,492千円、投資有価証券売却益15,739千円、前受金の増加額39,388千円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は36,611千円となりました。

これは主に株式会社フューチャーショップにおける新機能等のソフトウェア開発により無形固定資産取得による支出51,958千円、投資有価証券の売却による収入14,875千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1,806千円となりました。

これはリース債務の返済による支出1,806千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,232,172	1,405,850
売掛金	215,540	—
売掛金及び契約資産	—	220,004
仕掛品	3,972	6,753
前払費用	71,853	84,151
未収還付法人税等	—	13,742
その他	7,178	24,017
貸倒引当金	△1,837	△1,926
流動資産合計	1,528,879	1,752,593
固定資産		
有形固定資産	87,756	81,564
無形固定資産	257,255	283,596
投資その他の資産		
投資有価証券	589,577	457,901
その他	136,827	162,797
貸倒引当金	△7,938	△8,313
投資その他の資産合計	718,466	612,385
固定資産合計	1,063,478	977,546
資産合計	2,592,358	2,730,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	47,260	51,899
前受金	356,210	395,598
未払法人税等	98,165	50,242
賞与引当金	26,973	24,340
その他	168,555	159,819
流動負債合計	697,165	681,901
固定負債		
資産除去債務	33,527	33,588
繰延税金負債	30,783	14,736
その他	19,458	17,651
固定負債合計	83,769	65,976
負債合計	780,934	747,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	210,400	210,400
資本剰余金	160,400	160,400
利益剰余金	1,186,033	1,440,134
株主資本合計	1,556,833	1,810,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	254,590	171,326
その他の包括利益累計額合計	254,590	171,326
純資産合計	1,811,423	1,982,261
負債純資産合計	2,592,358	2,730,139

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	1,170,544	1,435,113
売上原価	488,672	601,710
売上総利益	681,872	833,402
販売費及び一般管理費	427,464	486,958
営業利益	254,407	346,444
営業外収益		
受取利息	5	8
受取配当金	16,620	26,496
その他	2,501	3,396
営業外収益合計	19,127	29,901
営業外費用		
支払利息	424	—
上場関連費用	7,662	—
その他	778	6
営業外費用合計	8,864	6
経常利益	264,670	376,338
特別利益		
投資有価証券売却益	14,313	15,739
特別利益合計	14,313	15,739
税金等調整前四半期純利益	278,983	392,077
法人税、住民税及び事業税	104,818	142,845
法人税等調整額	△4,681	△4,869
法人税等合計	100,137	137,976
四半期純利益	178,845	254,101
親会社株主に帰属する四半期純利益	178,845	254,101

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	178,845	254,101
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68,206	△83,263
その他の包括利益合計	68,206	△83,263
四半期包括利益	247,052	170,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	247,052	170,837

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	278,983	392,077
減価償却費	31,501	34,492
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△246	464
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△10,773	△2,632
受取利息及び受取配当金	△16,625	△26,504
支払利息	424	—
為替差損益 (△は益)	△895	△3,177
上場関連費用	7,662	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△14,313	△15,739
売上債権の増減額 (△は増加)	79	△4,839
棚卸資産の増減額 (△は増加)	2,264	△2,780
前払費用の増減額 (△は増加)	△7,827	△12,298
仕入債務の増減額 (△は減少)	△511	4,638
前受金の増減額 (△は減少)	26,720	39,388
その他	△2,985	△11,060
小計	293,457	392,029
利息及び配当金の受取額	16,625	26,504
利息の支払額	△453	—
法人税等の支払額	△139,599	△208,582
営業活動によるキャッシュ・フロー	170,030	209,952
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	1,080
定期預金の預入による支出	△180	△150
有形固定資産の取得による支出	△1,053	△442
無形固定資産の取得による支出	△54,163	△51,958
投資有価証券の売却による収入	18,420	14,875
その他	924	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,053	△36,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	213,137	—
リース債務の返済による支出	—	△1,806
財務活動によるキャッシュ・フロー	213,137	△1,806
現金及び現金同等物に係る換算差額	621	3,073
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	347,736	174,607
現金及び現金同等物の期首残高	768,855	1,231,242
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,116,592	1,405,850

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、サービス導入時及び導入後の機能拡張に伴うカスタマイズ売上について、第1四半期連結会計期間より期間がごく短いものを除き、履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が16,509千円、売上原価が8,369千円それぞれ増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ8,139千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はございません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。